



障害者リハビリテーションセンターの子どもたちと本間さん。みんなプールの時間を待ちわびている



一人でプールの中を歩けるようになるために、日々練習を重ねた

にある特別支援学校の体育の授業を改善することですが、大会に出場する選手に専門的な指導を行える人がいないという理由から、私が声が掛かったのです。」  
週に1度、筋力トレーニングやフォームの確認などを一緒に行うことにしたが、リケット選手が経済的な理由で練習場所まで来られないことや、当日までにやるように伝えた練習メニューをこなせていないこともあった。「ジャマイカでは、指導者と選手の上下関係は日本よりも明確です。でも私は、選手のチャレンジ精神を奮い立た

せるようなコーチでありたかった。ので、叱り付けはせず、もっと速く走りたいんだろ？あなたならできる」という言葉を常に投げ掛けました」と古川さんは話す。  
お互いの信頼関係を築きながら着実に練習を積み重ねていったが、大会本番、連日のレースによる疲れが原因で、リケット選手がけがをする事態に。取り乱してしまつた選手を救つたのは、古川さんだった。「誰の言葉にも聞く耳を持たない中、私の話だけは聞き入れてくれたのです。とりあえず彼を落ち着かせて、応急処置を施しました」。その日行われた100mと200mは、いずれもメダルには届かなかつたが、翌日のリレーでは負傷した体でアンカーを務め、最後に2人を追い抜いて銅メダルを獲得した。古川さ

海に囲まれたジャマイカだが、一般的に泳げる人は少ない。本間さんは、泳ぎ方を実演したり補助用具を使ったりしながら、基礎的な部分から指導した。中でも、水中カメラを使ったフォームの撮影は、選手が改善すべき点を自分の目で見て確認できるため、効果が

一方、首都キングストンでは、同国パラリンピック協会に所属し、障害者のリハビリテーションセンターで水泳を教える青年海外協力隊員がいる。2歳のころに水泳を始め、指導経験も豊富な本間隆暉さんだ。東京パラリンピックに選手を輩出するという目標の下、選手とコーチの育成に取り組むことになったが、初めて施設を訪れた日に、驚きの光景を目の当たりにする。「プールは私が来る1年前から全く利用されておらず、緑の池と化していました」。まずはプールの掃除と水質管理を行うという、まさに一からのスタートとなった。

2020年の東京パラリンピックでは、ジャマイカから新たなスター選手が誕生するかもしれない。

指導を始めてから1年余り。本間さんにしがみついて離れなかつた子どもが、一人で水中を歩けるようになったり、浮具が無くてもバランスを保てるようになったりと、目に見える成果が表れ始めている。利用者も増え、今では週に1度、理学療法士によるプールでのリハビリも行われるようになった。「私の任期が終了した後、選手を育成できる環境を作ることが目標です。そして何より、多くの人に水泳の楽しさを伝えたいと思います」と本間さんは話す。

本間さんが着任した当時のプールの様子。このプールをよみがえらせることから始まった



### 将来のある子どもたちに スポーツの楽しさを

んは、「リケット選手との練習でも、特別支援学校の体育の授業でも、できることが増える瞬間に立ち会うのはうれしいものでした。今後は、日本でもさらに特別支援教育の経験を積みみたいと思っています」と目標を語る。

大きかったという。

未来のスイマーを育てるため、6〜14歳の子どもたちへの指導も行っている。練習は、学校の授業と理学療法士によるリハビリ後の限られた時間のみ。それに加え、安全面から一度に指導できる人数も限られるため、なかなか思うようには進まない。だが本間さんは、今後10年、20年と指導が続いていくための基礎作りとして、焦らずに時間をかけて教えることを心掛けていくという。「指導していて感じるの、みんなプールが大好きだということ。大雨の日でも、子どもたちは私を見掛けると、今日はプールある？と聞いてくるほどです」。



古川さんが赴任した特別支援学校での体育の授業。この日は、玉入れをして遊んだ

## カリブ海の島国から 世界に羽ばたく

ジャマイカでは、陸上や水泳をはじめとするさまざまな種目の障害者アスリートたちが、大舞台での活躍を目指して日夜練習を重ねている。そんな彼らを支える心強い存在が、スポーツの素晴らしさを伝えるべく派遣された青年海外協力隊だ。

### 選手を支えたものは 強固な信頼関係

世界屈指の陸上王国、ジャマイカ。100mと200mの世界記録を持つウサイン・ボルトは、国内のみならず、今や世界的な英雄となった。実はジャマイカでは、障害者スポーツにおいても陸上は特に人気がある。これまでも数々の選手をパラリンピックに輩出しているほか、スポーツを通じた障害者の社会参加を応援する組織「スペシャルオリンピックス」の世界大会でもメダルを獲得してきた。

昨年は、4年に1度のスペシャルオリンピックス夏季大会の開催年。この大会で金メダル獲得を狙っていたのが、21歳の若きスプリ



陸上のリケット選手にストレッチを行う古川さん

